

園田学園大学（大江ゼミ）の学生さんによるインタビュー

インタビュアー（質問者）：園田学園大学（大江ゼミ）の学生

インタビュイー（回答者）：尼崎市役所公園計画・21世紀の森担当の職員

インタビュイー（回答者）：尼崎緑化公園協会の職員

【質問1】 GARDEN3はどういった事業ですか？ 事業の概要を教えてください

（回答）尼崎緑化公園協会

働く環境がストレスフルになっている現代において、心と身体を整える職場環境が必要となっている中、それを緑の力を使って解決しようとするのが「GARDEN3」です。

GARDEN3は企業に観葉植物をレンタルする事業ですが、これは人が緑に触れ合うことで、ストレスが軽減されたり、心身が癒されるという、人間本来の欲求に訴えかけることで、働く人の幸福度の向上や、生産性の向上を目指すだけではなく、従業員を大切にしている企業であることをアピールすることで、良い人材の確保や従業員の定着といった企業ブランドの向上も目指すものであります。

また、GARDEN3で得た収益の一部をボランティア活動への助成や、公園の整備に還元することで、あまがさき発の持続可能な新しいまちの共創モデルを創ろうとしているものであります。

【質問2】

① 尼崎市として、数ある市民提案の中から「GARDEN3」を採択した決め手は何ですか？

② このプロジェクトが、尼崎市の掲げる「緑のまちづくり」や「健康都市」のビジョンに、どのように貢献すると期待していますか？

③ 市民・企業・行政が三位一体となる「共創モデル」について、行政の立場からどのような可能性を感じていますか？

（回答）尼崎市役所

GARDEN3は、「緑を通じて健康とつながりを育む」という視点から、市が進める「みどりのまちづくり」と「健康都市あまがさき」の両方に重なる、非常にユニークな提案でした。

これまでの企業の緑化活動は、敷地内緑化という、どちらかというと景観形成に視点を置いた取組が中心でしたが、GARDEN3は、日常の働く場に「みどり」を取り入れていくインドアグリーンに着目した点と、それをそこで働く人の健康増進につなげていくとい

う点で、新しい段階に踏み出した取り組みだと評価しています。

また、行政が直接支援するのではなく、協会や企業が自立的に活動を広げ、成果を地域へ還元していくという「共創モデル」を描いている点も、これからの公共サービスのあり方として非常に意義深いと感じています。

市としても、行政主導ではなく“市民と企業の創意を支える立場”として、このプロジェクトの広がりを後押ししていきたいと考えています。

【質問 3】

① 尼崎緑化公園協会ってどんな団体ですか？特長を教えてください

（回答）尼崎緑化公園協会

尼崎緑化公園協会は、昭和 53 年に民間人の寄付により設立された団体です。

設立以降一貫して、市民の方々が緑を生活の一部に取り入れることで、明るく豊かで潤いのある暮らしを送ってもらいたいとの思いで、そのきっかけ作りとなる講習会やイベントを数多く実施してきました。

また、街の緑のお医者さんとして、年間 4,000 件もの緑に関する様々な相談にも丁寧に応えています。

そして、職員一人一人は、「尼崎の緑の伝道師」を目指して、多くの人に緑の良さや魅力を伝えとともに、植物を通じて皆が幸せになれる方法がないかを考えている、緑のことが大好きな、緑の専門家集団です。

② 貴協会は長年、尼崎の緑化を担ってこられました。GARDEN3 が、これまでの活動と比べて最も革新的な点、またはこの新しい「共創モデル」にかける情熱を教えてください。

（回答）尼崎緑化公園協会

当協会は長年、尼崎の緑化を担ってきましたが、これまではどうしても尼崎市役所が緑に関して実現したいものを、当協会が実務家集団として実現するといった「受け身的」な事業が多かったのですが、この GARDEN 3 は、当協会が自立する道を見だし、市民のためにやりたいことを自ら叶えようとしているところが最も革新的な点であります。

公益財団法人という、公的な機関の外郭団体として受け身なイメージがあると思うので、この GARDEN 3 を通じて、世代や立場を超えて共に育む「新しい街の共創モデル」を確立することで、そうしたイメージを払拭し、市役所に頼らない、逆に頼られ

る存在になることで、「公益財団法人」のイメージアップを図ることを目指しています。

【質問4】 私たち学生は、将来の職場の「働きやすさ」に高い関心があります。観葉植物が職場の環境や社員のストレス軽減に本当に役立つのか、専門家として実証データ（バイオフィリア効果など）を交えてお聞かせください。

（回答）尼崎緑化公園協会

働く環境がストレスフルになっている現代において、心と身体を整える職場環境が必要となっている中、それを緑の力を使って解決しようとするのが「GARDEN3」です。緑にはそれに触れ合うことで、ストレスが軽減され、集中力が高まり、心身が癒されるという効果があると言われており、これを「バイオフィリア効果」といいます。

GARDEN3 では、人間が本能的に自然や生命を愛し、深いつながりを求めるという人間本来の欲求に訴えかけることで、従業員のウェルビーイング（幸福度）の向上や、生産性、創造性の向上を目指すことはもちろんのこと、企業が環境問題に積極的であったり、従業員の働き甲斐を大切にしていることを同時にアピールすることで、良い人材の確保や、従業員の定着にも繋げていきたいと考えています。

ちなみに、アメリカのコンサルティング会社のロバートソン・クーパーが、世界16か国7,600人のワーカーを対象に、オフィス環境におけるバイオフィリックデザインの効果について行った調査では、自然光や植物などの自然の要素を取り入れたオフィス環境で働いているワーカーは、そうでないワーカーに比べて、ウェルビーイング（幸福度）と創造性が15%アップし、生産性も6%アップしたとの報告がなされています。

【質問5】 観葉植物のレンタルに加えて、「緑でつながる交流会」も実施される狙いは何ですか？

健康づくりとコミュニティ形成は、どのようにリンクするとお考えですか？

（回答）尼崎緑化公園協会

一般的な観葉植物のレンタル事業では、レンタル会社と利用企業との繋がりだけの関係に終わってしまいがちですが、GARDEN3 では、参画する企業同士が交流を持つことができる「緑で繋がる交流会」を年4回実施する予定です。

この緑で繋がる交流会では、当協会が管理している公園の中でも、茶室のある公園として有名な宮内公園でのお茶会や、また上坂部西公園では、園内にある植物園を、単

にガイド付きで見学するだけではなく、普段一般の見学者は入ることができない植物園のバックヤードを見学するといった、公園を使った「大人の遠足」を実施したいと考えており、公園で参画された企業の社員同士が輪になってお弁当を食べることで、健康づくりや企業間のコミュニティ形成にも役立てたいと考えています。

【質問6】 収益の一部を地域の緑化活動などに還元する仕組みは、行政の負担軽減や市民活動の後押しとして、どのような効果を生み出すと期待されますか？また、これは先進的なモデルケースとなり得ますか？

（回答）尼崎市役所

従来、緑化活動や公園の維持管理は、市の財源や補助金に頼る部分が多く、どうしても行政予算の制約が大きな課題となっていました。

また、地域のボランティアの方々を中心となって支えてこられた活動も多く、いわば“善意”や“慈善的な思い”に支えられてきた面があったと思います。

その一方で、そうした活動はどうしても限られた方々の熱意に頼る構造になり、継続性や新たな担い手の確保という点で課題を感じていました。

その中で、GARDEN3のように事業としての収益を地域に再投資する仕組みは、行政の負担を増やさずに市民活動を継続的に支援できる、非常に画期的なモデルだと考えています。

この取り組みの大きな意義は、「負担」だけでなく「メリット」も関係者全体で共有できることにあります。

これまでボランティア活動には参加しづらかった層にとっても、自らの事業や働く場に価値を感じながら地域活動の支援に参加できる点で、地域活動への参入のハードルをひとつ下げていると感じます。

こうした「社会的循環モデル」は、持続可能な公共サービスの新しい形として注目されています。

市としても、単なる緑化事業にとどまらず、企業の社会貢献意識を高め、市民活動を下支えする“仕組みづくり”の観点から、非常に先進的で意義のある挑戦だと感じています。

今後はこのモデルを他の分野にも広げ、地域と企業、行政が互いに支え合う構図をつくらせていきたいと考えています。

【質問7】 3年で100社の「GARDENさん」創出を目指すとのことですが、このネットワークが尼崎のまちにどのような「御縁」と「変化」をもたらすと考えていますか？

(回答) 尼崎緑化公園協会

3年間で100社のGARDENさんが集っていただければ、それは間違いなく「バイオフィリアと健康経営の自治体連携モデル」として地域最多の企業ネットワークになると考えています。

またネット上で、GARDENさんが集えるプラットフォームも用意することで、新たな御縁が生まれると共に、我々の想像を超えるような変化が生まれることを期待しています。

【質問8】 私たち学生も、GARDEN3の活動を広める「応援団」として関わっていきたいです。若い世代の視点から、どのような協力ができるとお考えですか？

(回答) 尼崎緑化公園協会

GARDEN3では、企業の良い人材の確保や従業員の定着にも繋げていきたいと考えているので、当事者である、あなた達のような若い世代の方々が、このGARDEN3の「応援団」になってもらえることで、企業の経営層に働きかける効果は高くなると考えています。

出来れば、皆さんそれぞれが、なぜこのGARDEN3の応援団になったかを、ご自身の言葉で伝えていただければありがたいです。

【質問9】(質問) 尼崎緑化公園協会

- ① 尼崎市内で学ぶ学生として、このプロジェクトにどんな魅力を感じますか？
- ② 「緑の輪を拡げて、新しいまちづくり」というコンセプトについて、皆さんの視点から見てどう思いますか？
- ③ もし皆さんがGARDEN3の広報を手伝うなら、どのような方法で同世代に伝えますか？

(回答①・②) 園田学園大学

「緑の輪を拡げて新しいまちづくり」というコンセプトは、環境に優しいだけでなく、人と人とのつながりを生み出す点が魅力的だと思いました。

私は尼崎に住んでいて、小さい頃はまちが賑やかで人が集まる場所がたくさんありま

したが、最近は少しさみしく感じることもあります。

このプロジェクトを通して、緑が増えて自然を感じられる場所ができると同時に、尼崎市民のコミュニティが活性化して、昔のような賑わいを取り戻しつつ、さらに進化した尼崎になってほしいと思います。

（回答③）園田学園大学

S N S での発信により同世代に伝えていきます。

【質問１０】 最後に、当インタビューをご覧の職場環境と尼崎の未来を考える皆さまに、GARDEN3 プロジェクトを通じて伝えたいメッセージをお願いします。

（回答）尼崎緑化公園協会

「みどり」の専門家集団である尼崎緑化公園協会が、緑化と健康づくりを推進するために観葉植物を使った「GARDEN3」を始動しました。

この GARDEN3 はただ単に観葉植物をレンタルするのではなく、レンタル事業の収益の一部を市民に還元することで、あまがさき発の持続可能な公益プロジェクトとして新しいまちの共創モデルを創ります。

また、GARDEN さんになっていただいた企業には、従業員のウェルビーイング（幸福度）の向上や、生産性、創造性の向上だけでなく、良い人材の確保や従業員の定着にも繋がっていくものであります。

そんな尼崎を緑の街に変える挑戦に、皆さんの力を貸してください。

未来を創る仲間「GARDEN さん」として、ぜひこの緑の輪に加わってください。

（回答）尼崎市役所

GARDEN3 は、「みどり」をきっかけに、人・企業・地域がゆるやかにつながる“新しいまちづくりの形”を示しています。

行政としても、こうした市民や団体、企業が主体的にまちを動かす取り組みこそ、これからのあまがさきを支える力になると考えています。

市民の皆さんが身近な場所で緑に触れ、健康を感じ、そして地域に貢献できる。そんな循環を生み出すプロジェクトとして、GARDEN3 の輪がさらに広がることを期待しています。

以 上